

1学期終業式 講話 ■令和4年 7月 19日

## No.12 「カナ文字 3」

校長先生の言葉は皆さん的心に届いていますか？

先週の児童集会ではTEAMSの調子が悪く、カナ文字のお話の続きをできませんでした。そこで、本日は、終業式のお話と含めてカナ文字のお話をしまして、1学期のしめくくりとしたいと思います。

まず、先々週のお題は「なぜ世界で最初に書かれた漢字が「占」なのでしょうか。」でした。

みんなの考えでは、「占いがはやっていたから」とか、「昔一番使っていた漢字だから」などがありました。そして、卑弥呼の名前をだしてくれたお友だちもいました。さすが6年生。今回は難しいという声も聞こえてきましたが、実際かなりむずかしい問題だったようです。

では、一緒に考えてきましょう。

もともと、昔の中国では、話す言葉はありましたが、漢字などの文字はなかったのです。もし、今の日本で漢字やひらがななどの全ての文字がなかったら、どうなると思いますか？どんな困ったことがおこるでしょうか？たとえば、学校で文字が使えないとなったら便利ですか？不便ですか？少しまわりの人と聞き合ってみてください。

どんな意見がでましたか？めちゃくちゃ不便ですよね。たとえば、連絡帳。明日のものは、先生が話す、それをみなさんには聞いて全部覚えないといけません。不可能ですね。

教科書もノートもありません。ラッキーと思った人はいませんか？漢字ドリルも宿題もなくなる、なんてすばらしいことだと思った人はいませんか？ところがよく考えてください。教科書もノートもなくて、勉強ができますか？連絡帳と同じで、先生が話されたことを全て頭で覚えなくてはいけないのですよ。

そう、文字というのは、知識や知恵、情報など人が考えたものを、ずっと残しておけるとても便

利なものなのです。

では、宿題の答えですが、このように、文字、漢字は何かを残したいときにとって便利なものでした。では昔の中国で絶対に残しておきたいものって何でしょう。それが占いだったのです。しかも、王様が行う占いを書き残すために、漢字ができたと言われています。

ところで、その王様はなぜ王様と呼ばれ、国民のみんなから尊敬されていると思いますか。どんな人が王様になると思いますか。少しまわりの人と聞き合ってみてください。

力の強いひとでどうか？大金持ちでどうか？一番賢かった人でどうか。実は昔の中国では、上手に占いができた人が王様になっていたようです。占いぐらいでなれるのと思うかもしれません、実は当時の占いは人の命を守るとしても大切なことで、よく当たる占いができる人は、みんなからとても尊敬されていたのです。

たとえば、「あと10日もすれば、たくさん雨が降るぞ。すると川が氾濫して、家も畠もみんな流されてしまう。そうならないよう、10日後に高いところに避難しておきなさい。」と占います。実際10日もすると本当に雨がたくさん降って川が氾濫して大変なことになりましたが、占い通りにみんな高いところに避難していたので助かりました。占いは人の命を救う、とても大切なものだったのです。

で、この占いですが、文字のなかったころは、どうだったか想像できますか。占いの結果を口で言うだけだったらどうなると思いますか。本当に10日後に雨が降っても、王様が本当に10日前に占っていたことが証明できないのです。「王様、10日前に本当にそんなこと言ってましたか？」と、みんな疑ったはずです。皆さんにもこんなことありませんか。ちゃんと紙に書いておかないと、言った言ってないでもめることって今でもよく起こります。そこで、王様はそれを防ぐために、亀の甲羅を使って占いをして、そこに10日後に雨

が降るとはつきり漢字で書いたのです。これならば、10日後本当に雨が降ったとき、「王様が10日前に書いていた占いどおりだ！」とみんなが尊敬しますよね。

なぜ最初の漢字が「占い」なのは、王様がみんなの尊敬を集めるために、書き残す必要があったからということです。

さて、このように文字というのは「残す」というおおきな働きもありますが、他に先ほど考えましたように、文字のおかげで人は「学ぶ」こともでき、かしこくもなります。

実際に文字を教えてもらえば、大変なことになっていた人々がいます。昔の奴隸です。昔、アメリカなどには奴隸とよばれる人がいました。遊んだり、自由にどこかにいったりすることはできなくて、ただただご主人様のために、一生働くのです。もちろん子どももです。そんな奴隸ですが、ごはんや服、住む家は与えられていました。死んでは困るからです。でも、絶対に与えてはいけないものがありました。なんだかわかりますか？

そう、文字なんです。文字を与えるとかしこくなつて、ご主人に反抗したり、こんな奴隸制度はおかしいと、奴隸がグループを組んで反対運動をおこすから、奴隸は学校にも行かせてもらはず、文字は絶対に教わりませんでした。

でも、実際はこっそり拾った本などで文字を学んだ奴隸が賢くなつて、反対運動を起こしたりしました。最終的にはリンカーンの奴隸解放宣言がでて、奴隸はやっと自由を手に入れるのですが、それぐらい、文字というのは人間の自由や平等にも関わる大切なものです。

だから、学校ではひらがなからはじまりカタカナ、漢字とたくさんの文字を学び、人として最低限の権利の自由や平等について、守っていく大切にしていく気持ちを育んでいくんですね。

文字を学ぶことは、めんどくさいかもしれません

んが、文字がなかつたら、まったく学ぶこともできず、自由や平等も守れませんので、がんばって学んでいきましょう。

そして、いよいよ明日から夏休みですね。学校がお休みになるかわりに、たくさん宿題がでているかと思います。今の文字の話から言いますと、宿題をやらないと、先生やおうちの人人に叱られるからやるのではなく、ひとつでもたくさんの文字をおぼえたり、それを練習できる場所だと思ってがんばってみてください。長い休みですから、1日や2日ぐらいは宿題、文字を書かない日もあるかもしれません、3日間文字を書かないと手が怠けてきます。宿題を単にこなすのではなく、文字にふれるチャンスだと思って、一文字一文字丁寧に書いて宿題をしてください。そうすれば、夏休みの終わりには、一段と賢くなった自分と会うことができますよ。

それでは、次は8月25日、みなさんの元気で賢くなった顔と再会できることを祈っています。

これが今週のお題です。今日も最後まで静かに  
聞いていただきありがとうございました。